

平和の定義を皆さんは知っているだろうか。辞書によると、戦争や武力による威嚇を放棄し、人権が尊重され、人々が安心して暮らせる状態を指す。しかしそれは国によって、または人によって様々な意味合いを含むのではないだろうか。私はインドネシアに4年間在住しており、日本とインドネシアの平和に対するとらえ方の違いを感じることが多々あった。その経験を通じて、私は全ての人々が衣食住が整った生活を送ることができる世界が平和だと考えるようになった。

では、インドネシアは平和と言えるだろうか。私は、人の心は平和であると感じている。それは、インドネシアの断食という行事がきっかけだった。断食は午前4時から午後6時まで飲食を禁止する行事だ。私はいつもインドネシア人の運転手に登下校の送り迎えをしてもらっているが、ある日、断食期間中に渋滞に巻き込まれ、午後6時を過ぎてしまった。しかし、その運転手は、全くイライラすることなく運転してくれた。その姿を見て、私は心が穏やかだなと感じた。その運転手に「断食は辛くはないのですか。」と尋ねると、「慣れているから、それほど辛くはない。」と答えた。その時、この我慢強さなどが、人々の心の平和につながっているのではないかと思った。しかし、インドネシアは平和かという問いに戻った時に、生活面では平和とは言えないと私は感じている。

では、どうして生活は平和でないと私が思っているか。それは、衣食住が十分に整っていないと感じる場面が多々あるからである。たとえば、街中では汚れた服を着ている人や靴を履いていない人、仕事を持てずに着ぐるみなどを着てお金を稼いでいる人を見かける。さらに、崩れかけた家もよく目にする。これは地方の賃金水準の低さや、教育格差などが影響しているのではないだろうか。例えば、首都ジャカルタの最低賃金は5万円ほどであるのに対し、中部ジャワ州は2万円ほどである。また、首都ジャカルタは平均11年の教育が受けられるのに対し、離島部では平均6年間しか学校に通えないところもある。

このような地域間などの経済格差、貧富の差などの課題を解決し、衣食住の充実に向けて取り組むことが、さらなる平和につながると私は考える。また、人々の心の平和をこの先も維持していくことを忘れないように、課題に立ち向かっていってほしいと私は願っている。